

指導・評価法デザイン基礎研究2023 第15講

# 博物館が「困難な歴史」を どのように扱っているか⑤

—ハワイ移民資料館 仁保島村を事例に—

---

広島大学大学院 人間社会科学研究科 教育科学専攻  
教師教育デザイン学プログラム 社会認識教育学領域  
博士課程前期 M236954 溝口 雄介

2023年6月15日（木）

# 本報告の構成



---

## 01.はじめに

講座の目標を確認し、なぜ私が「ハワイ移民資料館 仁保島村」を調査対象に選んだのかを示す。

---

## 02.わたしの到達点

これまでの講座での学びを通じて、私の「困難な歴史」の捉えを示し、そこから本報告のRQを導出する。

---

## 03.博物館の概要

調査対象である「ハワイ移民資料館 仁保島村」の概要をお伝えする。

---

## 04.分析・考察

「ハワイ移民資料館 仁保島村」を事例に分析・考察したRQへの回答を示す。

---

## 05.おわりに

本調査の成果と課題、今後の展望を示す。

# 01. はじめに

指導・評価法デザイン基礎研究の講座目標は次の2点である。

- (1) 課題文献の翻訳・読解・協議を通して、博物館における「困難な歴史」の指導・評価の原理を探究する。
- (2) 博物館のフィールドワークを通して、博物館における「困難な歴史」の扱い方を学ぶ。

本報告は、(2)の達成を目指して「ハワイ移民資料館 仁保島村」でフィールドワークを行った記録である。





# 01. はじめに

「ハワイ移民資料館 仁保島村」を調査対象に選んだ理由は次の3点である。

- (1) 戦争以外のトピックで「困難な歴史」になり得るトピックについて検討する中で「移民」にたどり着いたから。
- (2) 私の祖父がブラジル移民にルーツをもつ日系ブラジル人であり、「移民」は私のアイデンティティとつながるトピックであるから。
- (3) 家の近くに国内トップクラスのハワイ移民に関する資料館があることを知ったから。





# 01. はじめに

本報告では、先に、現時点でこの講座を通じて私が「困難な歴史」をどのように捉えているかをお伝えし、その到達点からRQを導出する。

その後、資料館の概要をお示しし、設定したRQへの回答を検討していく。

本報告を作成するにあたり、「ハワイ移民資料館 仁保島村」に2回訪問し、川崎 壽 館長とは計5時間近く対話を行い、多くの資料を頂戴した。

川崎館長の情熱に応えられる報告としたい。



## 02. わたしの到達点

- 「**困難な歴史**」…教師が教える際に「困難さ」を感じ、生徒が学ぶ際に「困難さ」を感じるような、自己の認識とは異なる歴史解釈（ナラティブ）のこと。

歴史認識をめぐって対立や論争があるトピック  
(奴隷制、人種・民族差別/迫害、戦争加害など)

教えることの  
困難さ



授 業



学ぶことの  
困難さ

\*どのトピックに対して  
どの程度の「困難さ」を感じるかは  
個人によって差がある  
→トピックと自身のアイデンティティ  
との親密さの程度が関係？

対 話

和 解

結 束

## 02. わたしの到達点

### ●Gross&Terra（2018）が提唱した「困難な歴史」の5要件への疑問

- △ ① 国家の歴史において中心的な出来事。
- △ ② 広く受け入れられている過去の語りにも反駁する傾向。
- △ ③ 現在、私たちが直面している問題や問いとつながる傾向。
- △ ④ 暴力、特に国家による暴力を伴う傾向。
- ◎ ⑤ **既存の歴史理解にゆさぶりをかけ、不均衡を創造する出来事。**

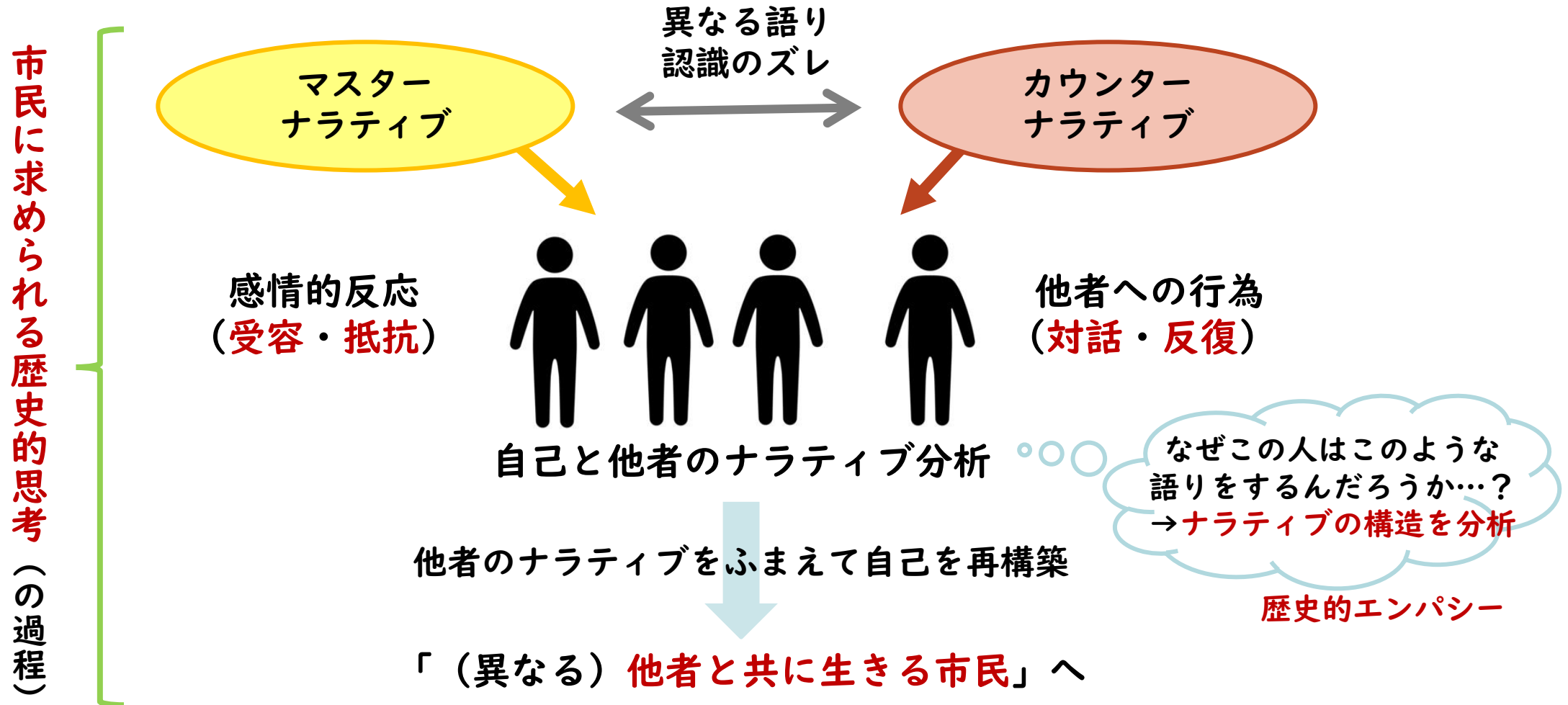
（金・小野（2022）より引用）

（疑問1）①～④を満たさない⑤は存在するのではないか？

（疑問2）何を「既存の歴史理解」とするかは個人・文脈によって異なるため、「困難な歴史」＝「広く受け入れられている過去の語りにも反駁する」歴史とするのは誤りではないか？ → **「自己を受け入れている語りにも反駁」とすべき**

# 02. わたしの到達点

●小野（2021）の「困難な歴史」を探究する「批判的社会文化的アプローチ」





## 02. わたしの到達点

- 「困難な歴史」を授業に取り入れる目的

→ 多様な価値観をもつ他者と共に生きる市民（がもつべき歴史的思考）の育成

- 「困難な歴史」を授業に取り入れる意義

- ① 自己の認識（歴史解釈）をメタ認知させる。
- ② 自己の認識（歴史解釈）を再構築し、より開かれた認識を獲得させる。
- ③ ナラティブをめぐる対話を通じて、「歴史的エンパシー」の視点を獲得させる。

- 「困難な歴史」を授業に取り入れる際の教師の留意点

- ① 歴史事象を「構築物」として捉える・教えること。
- ② 学習者の感情的な反応を受け入れる。
- ③ 異なる解釈との対話を促す。
- ④ 異なる解釈をふまえた自己の認識の再構築を促す。

CMPの5R/ツールボックス

## 02. わたしの到達点

●わたしの到達点（現時点の「困難な歴史」に対する認識）から導出される本報告のRQは…

<リサーチ・クエスチョン>

ハワイ移民資料館 仁保島村は

市民に求められる歴史的思考（歴史的エンパシー）の

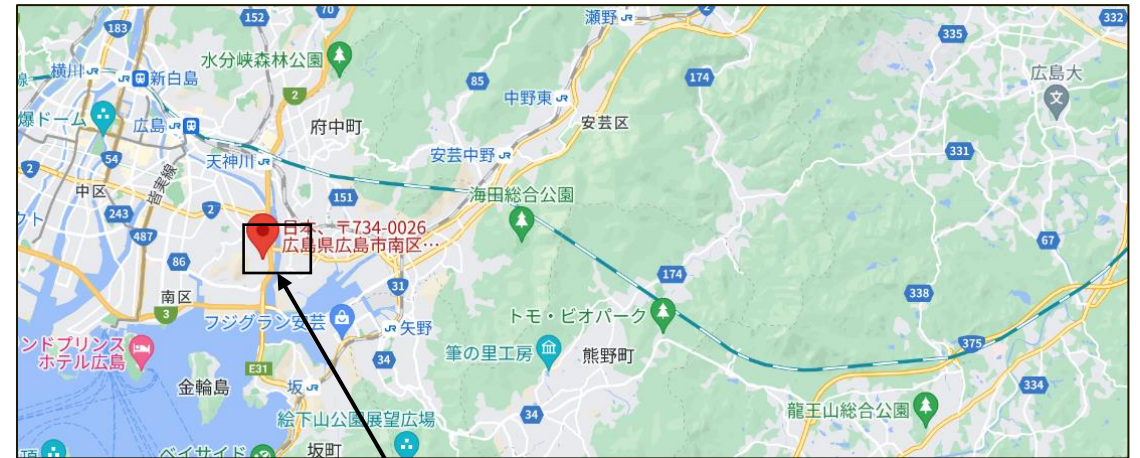
獲得を促す博物館か？

# 03. 博物館の概要

## ハワイ移民資料館 仁保島村

- ・住所 広島県広島市南区仁保3-17-6
- ・形態 私設資料館
- ・設置年 1997年
- ・設置者 館長 川崎 壽氏
- ・入館料 無料
- ・入館日 要予約（川崎館長に直接メール or 電話）
- ・HP <https://www.hawaiiinfo.com/>

## アクセス







# 圧倒される一次資料の展示量

公文書

手紙・はがき・絵画

貨幣・切手・新聞・写真

農具・かばん・生活用品



# 03. 博物館の概要

明治41年の旅券（パスポート）



(溝口撮影)

帰国時に用いたトランク



(HPから転載)

ハワイで撮影された広島出身の移民たち



(HPから転載)

# 03. 博物館の概要

## ハワイ移民とは

「出稼ぎ」労働者として日本からハワイへ渡航していった人びとを指す。

ハワイにおける移民は、急増するサトウキビ農園や製糖工場働く労働者を確保するため、1830年頃より始められ、関税が撤廃された1876年以降にその数が増え始めた。中国、ポルトガル、ドイツ、ノルウェー、スコットランド、プエルトリコなど様々な国から移民が来島したが、日本からやってきた移民が最も多かった（日本の中では山口県、広島県出身者が多い）。

日本からの移民は1868年から始まり、1902年にはサトウキビ労働者の70%が日本人移民で占められるほどとなり、1924年の排日移民法成立まで約22万人がハワイへ渡っている。

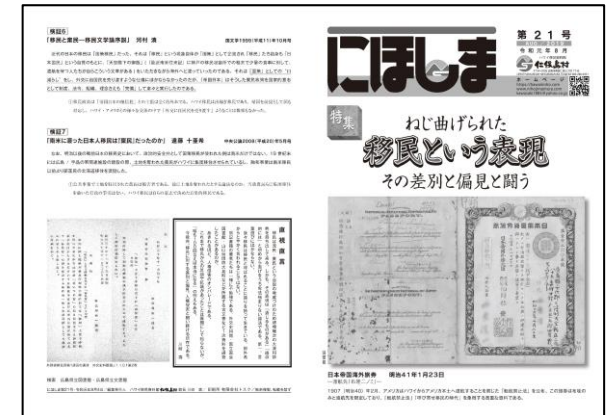
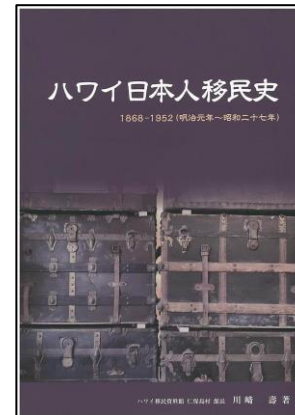
移民の多くは契約期間満了後もハワイに定着し、日系アメリカ人としてハワイ社会の基礎を作り上げていった。

## なぜハワイ移民を研究するのか

中高生のころの「移民は貧乏人」「貧乏だからハワイに渡った」という陰口、そして、ハワイ移民研究者たちによる「ハワイ移民は棄民政策」という根拠のない言説に憤りを感じ、自身とファミリーの誇りを取り戻すために研究を始め、今日まで続けてこられた。

膨大な一次資料と、それらの丹念な分析を通して、「移民は貧乏人」「移民は棄民」に理論的な根拠がまったくないことを証明した。

その主張は、著書『ハワイ日本人移民史』やホームページに掲載されているフリーペーパー「にほしま第21号」に記されている。





# 03. 博物館の概要

## なぜハワイ移民資料館を建てたのか

川崎館長は横浜生まれの日本人であるが、父はハワイへの移民であり、兄や姉はハワイ生まれのアメリカ人である。

中学時代に教師が言った「移民は貧乏人」という言葉が、ハワイ移民にルーツをもつ自身のアイデンティティをひどく傷つけた。それと同時に、ハワイ移民に対する自身の認識との差に疑問をもち、ハワイ移民について関心をもつようになる。

長年コツコツと収集してきたハワイ移民に関する膨大な資料を後世に伝え、文化を継承する責務が自身にあるとの認識のもと、自宅を改修して資料館を設置した。

「文化は国力」をモットーに、「小さきながらも目指すはスミソニアン」の熱き思いを胸に、今日も研究に励む。

## どのような人が資料館を訪れるのか

大学教員や大学生、大学院生などの研究職にある人や、学校の教員が訪れることが多い。

ハワイに関心のある一般の方もたまに来られる。

「総合的な学習の時間」における調べ学習の一環として、地域の小学校に通う児童が訪れることもある。

ハワイや移民に研究関心があり、情報収集を目的に来館される場合もあれば、史資料の収集方法といったノウハウに関する情報を得るために来館される場合もある。

「語り部」としての川崎館長とともにある資料館であるため、来館者とは必ず対話を行う。基本的には川崎館長の理念に共感する者が訪れるため、これまで口論になったことはない。

「人間観察・人間研究が趣味」と川崎館長は言うが、目の前の者へ思いを伝えると同時に、何かを学び取ろうとするリスクがあり、学びの空間がそこにはある。

## 04. 分析・考察

<リサーチ・クエスチョン>

ハワイ移民資料館 仁保島村は、市民に求められる歴史的思考  
(歴史的エンパシー) の獲得を促す博物館か？



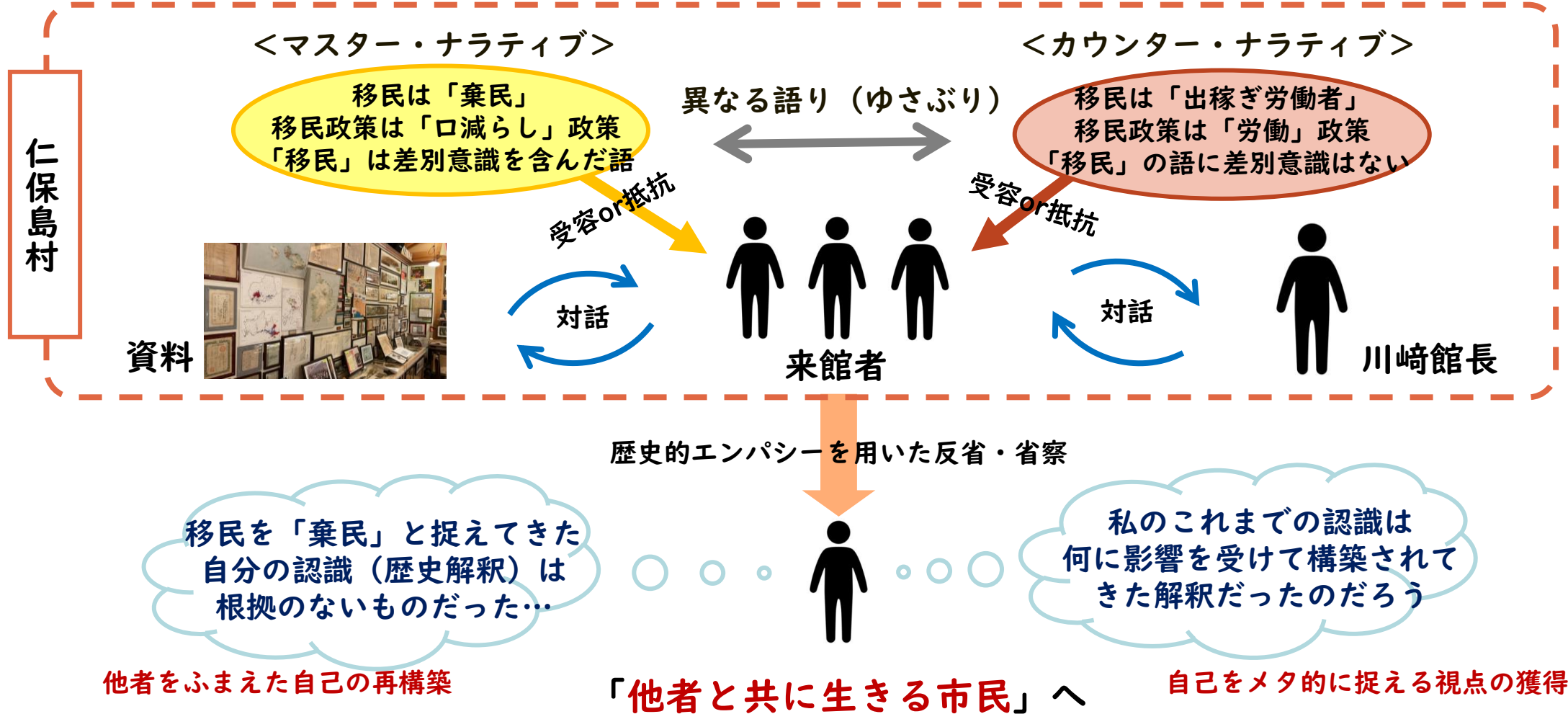
**Yes !**

ハワイ移民資料館 仁保島村は、歴史的エンパシーに基づく思考を促す博物館である！



なぜそう言えるのかを、スライド8で用いた概念図で分析する (次スライド)

# 04. 分析・考察





# 04. 分析・考察

- ハワイ移民資料館 仁保島村が歴史的エンパシーに基づく思考を促すと考える理由
  - ① ハワイ移民に関するマスター・ナラティブとカウンター・ナラティブが提示され、来館者は**自己の認識にゆさぶりをかけられる**から。(CMPの5R: 受容・抵抗)
  - ② カウンター・ナラティブの妥当性を示す一次資料が川崎館長の語りとともに提示され、「川崎館長の物語」としてカウンター・ナラティブと出会うことで、来館者はその**ナラティブに倫理的な反応を示しやすくなる**から。(ツールボックスの活用)
  - ③ 一次資料の内容やその解釈に関して川崎館長に質問し、対話を通してカウンター・ナラティブの解釈を吟味することで、「どうして川崎館長はこのような歴史解釈をされたのだろうか」「どうして私はこのような歴史解釈をしてきたのだろうか」と**自己と他者の解釈に焦点を当てて検討**することができるから。(CMPの5R: 反復)
  - ④ 川崎館長や一次資料との出会い・対話によって、**他者をふまえた自己の再構築、自己をメタ的に捉える視点の獲得が促される**から。(CMPの5R: 反省・再考)



## 05. おわりに

小野（2022）の「批判的社会文化的アプローチに基づく『困難な歴史』を探究する授業デザイン」を土台にした概念図を用いて、ハワイ移民資料館 仁保島村が「市民に求められる歴史的思考（歴史的エンパシー）の獲得を促す博物館」であることを分析した。

また、分析の視点としてRose（2016）のCMP理論を用いることで、両者の理論の融合を図った。

本報告では、「困難な歴史」を視野に入れつつ博物館を評価するアプローチとして提示した概念図が有用であることの可能性を示すことができた。

裏を返せば、あくまでハワイ移民資料館 仁保島村へのフィールドワークや川崎館長との対話を通じて得られた示唆であるため、他の博物館の分析への有用性は不確かである。

今後、この概念図を用いて他の博物館を分析し、どのような博物館が「市民に求められる歴史的思考としての歴史的エンパシー」を促すのかを明らかにしてみたい。

現時点での仮説として、アイデンティティに「中立性」が求められる公立の博物館では「市民に求められる歴史的思考」「歴史的エンパシー」の獲得が促進されないのではないかと考えている。





## 05. おわりに

「“One Town, One Museum” だよ、溝口くん」

「誰かを納得させようなんて小さい。相手は世間だよ」

「ここは私の基地なんだよ。ここにある資料は武器だ。一次資料を持ってらるってだけで、圧倒的に有利なんだから」

「君たちみたいな若者を相手にするのは楽しい。だって今日のことをどうにかして社会に還元してくれるだろ」

川崎館長との対話は、自分のすべてを見透かされているようで怖いと同時に、もっと話をしたいと好奇心がくすぐられる、密度の濃い時間でした。あっという間に3時間が過ぎていて、気づいたらまた会いに行っていました。

川崎館長の情熱と愛情に感謝します。

行かないと何もわかりません。ぜひ一度訪ねてみてください。

ここが私の前期の到達点です。ご清聴ありがとうございました。

溝口 雄介

# 参考・引用文献

---

- Juria Rose (2016) , “*Interpreting Difficult History at Museums and Historic Sites*”
- 金鍾成・小野創太 「『困難な歴史』の教育的価値の探究」 (広島大学大学院人間社会科学研究科紀要「教育学研究」第3号 (2022) )
- 小野創太 「『困難な歴史 (Difficult History) 』をどのように探究すべきか — 「批判的社会文化的アプローチ」による歴史授業デザインの変革—」 (全国社会科教育学会『社会科研究』第95号 (2021) )
- 川崎壽 『ハワイ日本人移民史』 自費出版、2020年。
- ハワイ移民資料館だより「にほしま」第21号 (特集「ねじ曲げられた移民という表現 その差別と偏見と闘う」) 2019年8月発行。
- ハワイ移民資料館仁保島村ホームページ (<https://www.hawaiiniho.com>) 最終閲覧日2023年6月15日